

情 報

更生の花は
慈愛の土に咲き



文京区保護司会



INDEX

会長あいさつ「令和5年度を振り返って」	2
文京区保護司会70周年記念式典・祝賀会	3
令和5年度文京区保護司会関連団体交流会	6
令和5年度保護司と文京区立小・中学校PTA会長との意見交換会	7

令和5年度文京区保護司会合同班会	8
令和5年度第Ⅲ期定期研修	9
令和5年度文京区受彰者	10
会務報告	10
更女だより	11
ホッと一息 あとがき	12



令和5年度を振り返って

文京区保護司会会長 亀田 一良



令

和5年度も残り少なくなってきました。今年度を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、ほぼコロナ禍以前の活動に戻ってきました。

そのなかで文京区保護司会が70周年を迎えたことと、社会を明るくする運動の取り組みについてを取り上げてみます。

70周年については、前年の4月12日に実行委員会を立ち上げました。この時点ではコロナ禍で記念式典・祝賀会が60周年の時と同じように行なえるかどうかまだ状況がはっきりとしていませんでしたが、行なうことを前提に進めていくことにしました。

東京ドームホテルとは、10月7日に初めての打ち合わせを行ないましたが、ホテルの担当者が60周年式典を行なった時と同じ方だったのでスムーズに進めることが出来ました。そして日時・場所も10年前と同じ日・場所を

仮に押さえてくれていて、十分に注意を払って行なってくれる約束をしてくれました。

清興は、イリス弦楽四重奏団の演奏でしたが、森山広報部長の紹介で早い段階で決めることが出来ました。当日の演奏も素晴らしく皆様方より好評でした。

記念誌は実行委員会とほぼ

同じ時期の7月27日に第1回の検討委員会（後に70周年記念誌編纂委員会に改称）

を広報部を中心に立ち上

げ、毎月検討会を行い、約1

年半かけて式典の前に出来上がりしました。

機関誌『情報』と同時に進めていたのが大変苦労をかけたのですが、立派な記念誌が出来たと思っています。

当日の様子は、別に組まれていますのでご覧ください。

社会を明るくする運動についてですが、文



京区では、東京ドーム周辺広報啓発活動、文京大会、文京矯正展の3本柱で取り組んでいます。コロナ禍で東京ドーム周辺で出来ず、時期をずらして文京シビックセンター周辺で規模を縮小して行なってきました。今回4年ぶりに以前と同様に執り行なうことが出来ました。

文京大会は、中学生の意見発表と講演（今年度は、障害者支援施設リアン文京の山内哲也総合施設長）を行ないました。コロナ禍の時は関係者のみの参加でしたが、今回は一般の方にも参加していただくことが出来ました。

文京矯正展は、シビックホールの改修工事と重なり、会場の区民ひろばが使用出来ず、これも4年ぶりの開催になりました。今回は11回目のお客様の来場を心配しましたが、各会員が呼び込みを行ない、多くの人が来場してくださり、品物によっては売り切れてしまった物も出て盛況裡に終わることが出来ました。

以上2つのことを書きましたが、来年度も皆様方の協力をいただきながら、保護司会活動を進めていきたいと思っています。

よろしくお願ひします。

文京区保護司会70周年記念式典・祝賀会

令和5年12月12日（火）
於 東京ドームホテル 天空の間



ご挨拶

文京区保護司会会長 亀田 一良

文京区保護司会は、昭和28年5月9日、96名で発足し令和5年度に創立70周年を迎えました。この間、数多くの諸先輩方の努力、関係官庁のご指導、区の行政をはじめ他の関係団体、地域の皆様方のご理解とご協力を賜り活動してきました。ここに厚く御礼申し上げます。

順調に活動してきた中で、令和元年末からの新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今まで行っていた活動の多くが困難になり残念ながら中止または縮小せざるを得ない状況になりました。そして現在は少しずつではありますがより良い活動を目指して動き出しています。

このような中、私ども保護司は、地域に根ざし

た活動を行うべく自己研鑽に励み、青少年の健全育成、対象者の再犯防止、地域との連携強化に努めて参ります。そして次の10年、さらにその先を見据えて一歩一歩足跡を残しながら歩いていく所存です。

これからも皆様方のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



文京区保護司会 70周年記念式典・祝賀会



区長 成澤廣修様 祝辞



所長 生駒貴弘様 祝辞



区議会議長 白石英行様 祝辞



教育長 加藤裕一様 祝辞

閉式の辞	来賓紹介	来賓祝辞	式辞	開式の辞	黙祷	保護司信条	式典
副会長	今年度受彰者表彰	文京区議長	会長	副会長			司会
		東京区議長	文京区議長				副会長
		東京都保護司会連合会会長	文京区議会議長				伊藤 泰子
		文京区教育委員会教育長	東京保護観察所長				
時田 千里		加藤 裕一様	生駒 貴弘様	成澤 廣修様	山本 諭	亀田 一良	
			松本眞由美様	白石 英行様			



東保連会長 松本眞由美様 祝辞



山本諭副会長 開式の辞



受彰者表彰



イリス弦楽四重奏団による演奏

清興 イリス弦楽四重奏団

1992年結成、「イリス」とはギリシャ語で「虹の女神」。虹のように色々な音色や音楽を表現し、たくさんの人々の架け橋になりたい、という願いが込められている。2012年、モーツァルトのディベルティメント作品を集めたCDアルバムをビジョン・クラシックよりリリース。

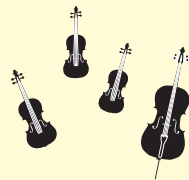
1st Violin

植村 薫
おたに さこ
大谷 美佐子
ごとう ゆうじ
後藤 悠仁
いどう さとし
伊堂寺 聡

2nd Violin

Viola

Cello



祝賀会

司会 副会長 山本 諭

開会の辞 副会長

会長挨拶 文京区保護司会会長

来賓挨拶 文京区長

乾杯 文京区更生保護女性会会長

祝宴 東京桐友会文京支部長

中締め

閉会の辞 文京区保護司会元会長

今井 英子

亀田 一良

成澤 廣修様

時田 千里様

後藤 尚孝様

丸山祐一郎様

西村 夏夫

令和5年12月12日

(火) 東京ドームホテルにて、ご来賓・会員114名出席のもと、文京区保護司会70周年記念式典・祝賀会が挙行されました。

ご出席いただいた皆様、開催にあたりご尽力いただきました皆様、イリス弦楽四重奏団、東京ドームホテルの皆様にご礼申し上げます。



後藤尚孝様の音頭で「かんぱ〜い！」



桐友会文京支部長 後藤尚孝様



今井英子副会長 開会の辞



来賓の皆様との懇親



西村夏夫副会長 閉会の辞



文更女会長 時田千里様 御挨拶



元保護司会長 丸山祐一郎様による中締め



70周年を祝う保護司会メンバー

令和5年度 文京区保護司会 関連団体交流会

ネットワーク部長 白石英行

日時 令和5年11月14日(火) 18時30分〜

場所 文京区民センター 2A

講師 文京区教育センター所長 木口正和氏

テーマ 文京区における不登校の現状と対応について

令

和5年11月14日 文京区民センターにおいて、行政から、加藤教育長・竹越福祉部長・木村福祉政策課長、区議会から白石区議会議長と警察署・町会連合会・校長会・PTA・青少年健全育成会・青少年委員・民生委員・児童委員・更生保護女性会・ボーイスカウト・ガールスカウト・BBS会・東京実華道場と保護司会の15団体が参加し、「文京区における不登校の現状と対応(特性を掴む)」について、

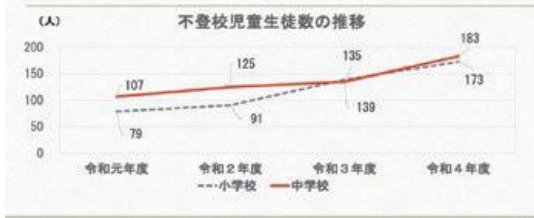
文京区教育センター 木



図1 全国の不登校の現状①人数



図2 本区の不登校の現状①人数



口正和所長から講演を頂きました。ネットワーク部では、青少年の環境を把握する為、昨年度は令和7年4月設置予定の文京区児童相談所(仮称)について講演頂き、家庭環境の変化を把握したことから、本年はコロナ禍で児童・生徒を取り巻く学校環境の変化を把握する為に「不登校」にスポットを当てての交流会となりました。

図1と図2にあるように全国及び本区において、令和元年より小・中学生の不登校数が増加しています。講演では、コロナ禍で「生活リズムが乱れやすい状況」・「学校生活の様々な制限による交友関係構築の難しさ」・「登校する意欲の低下」や「児童生徒休養の必要性を明示した法律の浸透の側面等」による保護者の学校に対する意識変化」などが要因と説明がありました。

文京区の対応として、平成27年開設の教育センターは「子どもたちの健やかな育ちを支える拠点」として、総合相談室・児童発達支援センター・教育支援センターが連携して、切れ目のない支援体制を構築していることから、学校では教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、家庭と子ども支援員を設置し、更に令和5年度より校内居場所(別室)対応指導員を配置して、校内別室やオンラインで居場所を確保するなど、学校と教育センターが連携して「学びの確保」に対応する体制について説明がありました。各団体の皆様からは、「この現状を理解し子供たちの健やかな成長の為に事業展開を実施していく」とのご意見も頂き、みんなで支えていくことを確認することもでき、文の京の素晴らしさを実感致しました。

保護司と文京区立小・中学校PTA会長との意見交換会

総務部 佐藤悦子

日時 令和6年1月26日（金） 18時～

場所 文京区民センター 2A

文

京区立小・中学校PTA会長との意見交換会が、東京都若者総合相談センター「若ナビα」をお迎え

して開催され、多くの皆様にご参加いただきました。開会の挨拶、各校参加者の自己紹介に続き、保護司会から保護司の役割や保護司会の事業などの説明がありました。

続いて「若ナビα」から参加された3名の方から活動内容を説明いただきました。「若ナビα」は、東京都内に在住、在学、在勤の概ね18歳から39歳の若者とその家族が利用できる無料相談窓口で、秘密は厳守され、電話・メール・LINE・面接など、匿名での相談もできるとのことでした。幅広い活動内容をパンフレットを参考に解りやすく説明していただいたあと、質疑応答に入りました。

今回のお話を伺い、東京都がこのセンターを開設した意義をもっと公に広く知らせることの必要性を強く感じ、このような機会に青少年のための数ある保護活動の資源を知り、積極的に活用の術を得ていくことが大切だと思いました。



令和5年度文京区保護司会 合同班会

日時 令和6年3月5日(火) 午後6時30分～

場所 文京区民センター3A

講師 東京消防庁小石川消防署 警防課防災安全係の皆様

小石川消防署より4名の署員の方々をお招きし、保護司33名参加のもと合同班会が開催されました。2011年三陸沖の東北地方太平洋沖地震以降も人的被害の大きな地震が続き、今年は元日から能登半島で大きな地震がありました。首都直下地震についてもマグニチュード7程度の地震の30年以内の発生確率は70%程度(2020年1月24日時点)と予測されています。今回はいざという場合に備え訓練を中心とした合同班会となりました。

1 消火器の使い方

実際の使い方のほかにも以下注意点を教えていただきました。

- ・火災を発見したら、まず周囲に知らせ消火や通報の協力を求める。
- ・低い姿勢でホースの先端を持ち、火元へ向けて放射する。
- ・粉末消火器は薬剤が舞い部屋中真っ白になり出口を見失うことも。あらかじめ出口を確認、自身の逃げ道を背にし、いつでも逃げられるようにして消火すること。
- ・初期消火の限界は「火が天井に届くまでの間」。炎が天井に達するような場合や危険を感じたときは避難し消防に任せる。



2 AEDの使い方

突然人が倒れる場面に遭遇したら…実際の使い方のほか以下注意点を教えていただきました。

- ・「大丈夫ですか」と呼びかけ、両肩をたたくなどして反応を確認。半身の感覚がない場合もあるので、左右両肩をたたいて確認する。
- ・反応、呼吸がない場合、119番通報とAEDを用意。周囲に漠然と声をかけるのではなく、個人に向け



- 「救急車お願いします」「AEDを持ってきてください」と確実に頼み、胸骨圧迫(心臓マッサージ)を開始。
- ・倒れている人を囲んで周りから見えないようにする、胸骨圧迫を交代するためにも、なるべく多くの人に協力を求める。
- ・感電を防ぐため周囲が濡れていないか確認。雨の場合は軒下へ移動させるなどの対応を。胸部が濡れていたら拭く(パッドは素肌に貼る。下着の金具はパッドに触れさせないように)。
- ・救急隊に引き継ぐまでAEDの電源は切らずパッドは貼ったまま、胸骨圧迫を続ける。

3 包帯(三角巾)による応急手当

- 用意いただいた三角巾を使用し、以下の手当を学びました。
- ・額の傷に対して行う止血方法
- ・腕を骨折した場合の三角巾での吊り方



AED訓練では「AED使用が死因になることは？」との質問があり、「パッドが解析して必要な場合に電気ショックの判断をします。AEDが死因に寄与することはまずありません」とのことでした。電源を入れれば、あとは音声に従えば大丈夫とのことでしたが、頭で理解していてもとっさに動けるとは限りません。いざというときに落ち着いて使用できるよう、定期的な訓練が必要だと思いました。また「東京消防庁電子学習室」のサイトには防火対策、震災対策、防災訓練、救急訓練などが動画でわかりやすく説明されています。ご参照ください。

大塚班 世話人 西川 素子

令和5年度 第Ⅲ期定例研修

日時 令和6年2月8日(木) 午後2時30分～
場所 文京区民センター 2A
講師 荒井智深 保護観察官
テーマ 「保護観察の面接について」



<研修のねらい>

「保護観察は、接触到始まり、接触到終わる」と言われるほど、対象者との接触は保護観察に不可欠であり、中でも面接は保護観察における処遇の基本となる。面接の意義及び目的を再確認し、面接の基本的な留意点を確認することにより、今後の処遇に生かすことをねらいとする。

I 主任官講義

荒井主任官ご自身のプロフィール、体験からの詳しい事例等を講義に取り入れて、対象者との接触の意義とルール、処遇区分による面接の頻度、個人情報と守秘義務についての配慮、対象者の傾向を知ることと面接者の基本姿勢、基本の面接技法、新しい生活様式を踏まえた面接方法について講義いただいた。

II 事例検討及び発表

グループディスカッション形式で資料の事例を基に検討した。「なかなか話してくれない対象者に話をし

てもらうためには、どのような声かけが考えられるか」「時に感情的になりとりとめなく話し続ける人にどう接したらよいか」「どうしたら仕事が長続きするのか自分で考えてもらうためにはどのような声かけをしたらよいか」「自分を正当化する少年をどうやって説得すればよいか」「保護観察期間が長く、話すことがなくなり面接が短時間で終わってしまう」などの事例1～事例5について、各グループからさまざまな角度からの対応策の発表があった。

III まとめ

事例検討後の各グループから発表の対応策に加えて、さらに各保護司から、体験からの事例を踏まえた興味深いお話を伺うことができました。また主任官からも、たとえ短時間でも月2回の面接が続いていることが大切、沈黙にも意味があるということをお伺い、時間がかかっても対象者が自分自身で答えを見つける作業のお手伝いできれば、と思いました。大変意義のある定例研修でした。

研修部 佐藤 悦子

関東地方更生保護女性連盟会員研修に参加して

大塚地区 西川 素子

日時 令和5年9月26日(火) 10:30~15:30

場所 合同庁舎1号館およびホテルプリランテ(さいたま市)

参加 茨城栃木群馬埼玉千葉東京神奈川新潟山梨長野静岡の更女会員

基調講演

演題 心をはぐくむ ～安全・安心の地域づくり、国づくりを目指して～

講師 前法務省矯正研修所長 紀恵理子氏

子ども・若者の健やかな成長を支援するために、「理解する」ということ、「支援する」ということの2点からお話くださいました。

「理解する」ということでは、問題行動は彼ら二人で起こすわけではなく、場所、場面、周囲の人間関係など取り巻く環境との関係の中で生じること、また「被害者」が転じて「加害者」となる場合も少なくないこと、家庭や学校、大人の存在の大切さ、安心感を抱ける場所と関与してくれる大人の存在により、自分の弱さと向き合い悩むことができるようになるなど、事例を交えわかりやすく説明くださいました。

「支援する」ということでは、サインの早期発見と原因に応じた対応が必要なこと、また、親の辛さに寄り添い、問題解決の答えを示すのではなく親子の解決力をサポートすることに注力していることなどをお話くださいました。そして更女によりよい活動のために、地域社会から期待されていることに応える、チーム力をあげるとともに、しなやかに、たくましく、生き生きと笑顔で活動されることを願いますというエールをいただきました。

グループ協議

テーマ ①講演を拝聴しての感想・意見

②「更女会の新たな旅立ち」

- ・新時代を迎え、これからの更女活動に求められるもの
- ・変わりゆく時代の中で、更女会の伝統とチャレンジを考える
- ・8名ずつ30テーブルにわかれ、それぞれ協議に入りました。
- ・90分ほどの時間でしたが、どのテーブルもそれぞれの地域の活動、課題、これからについて活発に協議されていました。
- ・終わりに、関東地方更生保護委員会の更生保護管理官西平様より講評をいただき、閉会となりました。



グループ協議の様子

東京更生保護女性会第2ブロック合同研修会

大塚地区 弘世 京子

日時 令和5年11月9日(木) 14:00~

場所 北とびあ スカイホール (北区)

令和5年11月9日、北とびあスカイホールにて4年ぶりに会場顔を合わせての合同研修が開催されました。森下淑子様を講師にお迎えし、子どもたちを応援しましょう「子育て・自分育ちに『手遅れ』という言葉はない」～今日が出発！今が出発！～というテーマでご講演いただきました。長い教職のご経験と現在も教育の現場に携わっておられる森下先生ならではの視点とお考え、信条をお聴きし、有意義な研修となりました。

テーマにある言葉「今日が出発」は会員に向けて今後の行動、取り組みのきっかけへの後押しであり、また既に取り組んでいることに自信を持って続けることへの励ましにも聞こえました。

現場から見えてくる今の子ども社会の課題として生活習慣の乱れを発端に意欲・学力・体力の低下、自然体験・社会体験の減少、成功体験の減少が挙げられました。生きていくトレーニングの場や機会が減少している、または個人差があるにも関わらず、大人(親)は相对比较に走りがちであるという指摘に苦い思いがしました。そんな現状があるからこそ様々な立場、きっかけで大人が子どもに関心を持って理解を深め、共感のコミュニケーションによってわずかでも子どもたちの自尊心や自己有用感の高まりの助けになればと思います。また課題に向き合い、努力し、模索しながら取り組みを続ける家庭・学校への理解と協力も不可欠であると感じました。「ポケットにハンカチを入れておくように、心にはいつも優しさ」とい言葉をお忘れずに。森下先生の言葉で締めくくられました。



同じ釜の飯

富坂班 白石英行

私は10歳の時からボーイスカウト活動に参加してきました。

小学校の時は、山に登るのが精一杯で、そこにある大自然を観察する余裕がありませんでした。中学生では、仲間と食事を取り眠ることが精一杯で、自然に溶け込みながらテント生活を過ごしました。高校生では、移動キャンプで準備不足を反省しました。大学生になって、多くの大人と接し、小・中学生の笑顔をつくることの素晴らしさを体験しました。亡き父が「奉仕は家庭が幸せでないと言ってはいけない」と言っていたので、社会人4年目から一歩引き、34歳初当選した後に完全カムバック

し、高校生の多感期の世代を自然に放ち、その体力に驚かされました。

現在、団委員長も勤め終わり、元気なスカウト達を見て「ホッとしている」自分がいます。しかし「次はこれやろう!」という要求に、前向きになれるのは、この経験と仲間が存在があり、良質な体験の提供にまた一歩を踏み出します。

私のトリセツ【取扱説明書】

本富士班 本間和久

発達障害を持つ対象者が増えてきたと言われていますが、どの小中学校でも各クラスに8%位、発達障害などで色々な特性を持つ子が在籍していることはご存じだと思います。個々に特性が違うのは当然のことですが、学校ではまず自分のことを客観視して、他の友達にも知ってほしい特性をトリセツ【取扱説明書】にし、自分の特性に応じた対応を知っ

てもらおうとする指導を行っている所もあります。内容で特徴的なのは、

◎私の上手な利用法

嬉しい頼まれごと、任せ方・嬉しい言葉、やる気の出る環境…こうやってアドバイスしてほしい、伝えてほしい

◎取扱注意

言っではダメなワード・NGな行為…こんなこと言われると落ち込み&怒ります

◎上手なお手入れ

いつも元気でいるためのメンテナンス(調子が悪いとこうなります…症状・理由・対処してほしいこと・定期的なお手入れ方法…故障しないように自分が気を付けていること)などです。自分を知り、相手にも伝えられるようにすることが大切なのです。

対象者との対応時も対象者だけでなく、自分もどんな人なのか知ってもらうことから信頼関係を築くことができるのではと思っています。

あとがき

お陰様で、保護司会が七十周年を迎えました。また、広報誌「情報」の発刊に向けて、ご協力をいただいた皆様に感謝を申し上げます。

さて、年末に家族が帰省し、例年通り年越しを迎えた元日に能登半島地震が起き、甚大な被害に見舞われました。亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、被害にあわれた皆様にお見舞いを申し上げます。

被災地では生活が一変し、厳しい避難所生活を余儀なくされている現状に、胸が痛みます。それでも、復旧に向けて作業に携わっている皆さんに、あらためて敬意を表します。日頃のつながりが強い地域ほど、災害復興の活動が迅速に行われていくそうです。一日も早い復旧・復興をこころより願っております。

浅川昇

〔広報部〕森山 堀内 山田 大橋 米岡
浅川 根尾 岸田 岡崎 西川
塩川 市原 菊川

情報 第五八二号

編集 文京区保護司会 広報部

発行人 文京区保護司会会長 亀田一良

事務局 文京区春日一―六二―一

文京区役所福祉政策課内

印刷所 企画・宣伝協同組合

エコフィールド事業本部